

【別紙1】

小笠原村立小笠原中学校令和5年度授業改善プラン

小笠原村立小笠原中学校
校長 椎橋 秀行

(1) 令和4年度の取り組みに関する総括

村学力調査の正答率の経年変化推移から、社会科などに改善の成果が見られるが、全体的に、横ばいや下降する傾向が見られる、特に数学や理科が喫緊の課題である。昨年度より、評価・評定について、国立教育政策研究所の資料をもとに共通理解し、「指導と評価の一体化」の視点に立ち、授業改善に取り組んできた。重点課題として取り組んできたが、結果として成果に出すことができなかった。令和5年度も、さらに「指導と評価の一体化」をふまえた授業改善に取り組む。

「喫緊の課題」(全国平均以下) 「課題」(全国平均+0.05以下)

	R5正答率	全国平均		R5正答率	全国平均	R4正答率	全国平均		R5正答率	全国平均	R4正答率	全国平均	R3正答率	全国平均
1年国語	0.65	0.59	2年国語	0.73	0.64	0.64	0.57	3年国語	0.70	0.67	0.71	0.67	0.77	0.71
1年社会	0.60	0.53	2年社会	0.63	0.51	0.56	0.53	3年社会	0.59	0.54	0.52	0.56	0.52	0.54
1年数学	0.74	0.66	2年数学	0.50	0.53	0.77	0.69	3年数学	0.52	0.54	0.55	0.57	0.75	0.68
1年理科	0.69	0.62	2年理科	0.54	0.55	0.65	0.62	3年理科	0.54	0.49	0.54	0.54	0.58	0.57
1年英語	0.86	0.83	2年英語	0.50	0.46	0.86	0.80	3年英語	0.55	0.49	0.58	0.56	0.87	0.81

(2) 授業改善のための取り組みについて

①課題の要因 特に数学に関して、全国平均を下回ったカテゴリーを整理すると以下のようになる。

<3年>				<2年>			
正答率が全国平均を下回ったもの							
分類	区分	校内	全国	分類	区分	校内	全国
基礎活用	活用	0.315	0.356	基礎活用	基礎	0.552	0.595
領域	図形	0.426	0.476	領域	図形	0.556	0.601
	データ活用	0.537	0.6		データ活用	0.29	0.449
観点	主体的に学習に取り組む態度	0.339	0.378	観点	知識・技能	0.544	0.589
解答形式	記述	0.037	0.23	解答形式	選択	0.508	0.601

共通しているのは、2・3年生ともに領域において図形やデータ活用に苦手としている。しかし、基礎活用や観点、解答形式などは異なる区分を苦手としている。全教科について、各学年の定期考査の分析やふりかえりなどによる特性や学習状況の把握が、授業改善につながる資料といえる。

②学校全体で取り組む事項

小笠原教育委員会教育目標実現のための授業改善に関する取り組みの重点である、「わかる」から「できる」を体感する授業を確実に実施するために、今年度も、「指導と評価の一体化」をふまえた生徒の実情に応じた授業改善に取り組む。また、「主体的・対話的で深い学び」の実現を図る場面や評価の方法を工夫して、授業の改善と評価の改善をすすめる。

さらに、義務教育9年間の学びの系統性を意識した小中一貫教育充実のための方策として、小・中学校の内容の枠組みと対象を確認し、それをふまえた上での授業改善推進プランを作成する。